

岐阜県感染症発生動向調査（2019 年第 10 週～第 13 週分、3 月分）コメント

平成 31 年 4 月 17 日

月番：馬場 尚志

<全数把握対象疾患>

- 結核は、発病患者においても潜在性結核感染症においても高齢者が患者の中心であるが、3 月は 10 代の発病が 1 例、0 歳児の潜在性結核感染症が 1 例みられた。
- 通常あまり県内から報告されない E 型肝炎が 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病が 2 例報告された。
- 侵襲性肺炎球菌感染症が 6 例報告されており、すべて成人例（65 歳以上が 3 例）であった。このうち、ワクチン接種歴が明らかであったのは 1 例（40 代）のみであった。
- 梅毒は、ほぼ前年同様の報告数で推移しているが、HIV 感染症の報告は今年に入り 1 例のみである（対前年比 20%）。
- 百日咳の報告は 2 例のみで、3 月は 20 歳以上の成人例の報告はなかった。
- 注目される麻しん、風しんの報告はなかった。

<定点把握対象疾患>

- インフルエンザは、例年より早く流行が終息し、県内のインフルエンザ警報は 3 月上旬に解除された。
- 伝染性紅斑は、報告が多い状況が続いている（前月比 204.8%、前年同期比 1433.3%）。
- ロタウイルスによる胃腸炎が増加傾向である（前月比 242.9%）。

- ・ 今年報告された侵襲性肺炎球菌感染症の約 2/3 が、65 歳以上の高齢者である。基礎疾患やワクチン接種歴など患者背景を解析し、高齢者への 23 価ワクチン接種の効果を含め、県民および医療者に対し情報提供することが期待される。
- ・ インフルエンザは、県内のインフルエンザ警報は 3 月 7 日に解除されたが、引き続き一定数の報告がある。また、他の病原体による感染症の予防の点からも、県民および医療者に対し、一年を通じて手洗い・咳エチケットに心掛けるよう、呼び掛けが必要である。
- ・ 伝染性紅斑は、全国的に報告が多い状況が続いている。妊婦を含め県民および医療者への注意喚起・情報提供が必要である。
- ・ ロタウイルス感染症は、この時期が流行期にあたるため、県民および医療者への注意喚起および予防に関する情報提供が望まれる。